

力博士も水銀説

水俣病調査の報告をよせる

米国患者の症状と酷似

昨年の九月水俣市を訪れ、水俣湾内の貝を採取したアメリカのメーランド州、国立衛生試験所疫学

部長レオナルド・T・カーランド

どを伝えている。

博士から、このほど徳臣熊大医学部助教授のもとに動物実験の結果が報告されてきた。このなかで同

カーランド博士は学界雑誌で水俣病を知り、昨年九月十六日水俣市を訪ね、水俣湾内の貝類を

博士は新日窒水俣工場の排水口に近いほど貝のなかに含まれる水銀

多量に採取するとともに、熊大医学部の研究結果をきいてアメ

量が多いことや、熊大が調べた水俣患者の病理症状がアメリカの水

リカに帰ったもの。報告はかなり詳しいもので、徳臣

銀中毒患者と酷似していることな

助救援の話によると、工場の排水口に近いほど、貝のなかに水銀量

が多く含まれていること②その貝でネコが発病したが、ネコの病理組織像が有機水銀中毒に酷似していること③熊大が研究した水俣病患者の病理症状がアメリカの水銀中毒患者と酷似していることなどがのべられている。

徳臣助教授の話 カーランド博士は神経病学の権威だが、水俣病に深い関心をもち、いまもアメリカで動物実験をつづけている。来年一月に再度熊本にきて熊大研究陣と意見を交換したいといっている。同博士の研究結果が私たちのものと同じであったことを喜んでいる。